

昭和58年度第1回 シグマ研究委員会運営委員会議事録

日 時 昭和58年4月22日(金) 13:30 ~ 17:30
場 所 原研本部第1会議室
出席者 原田(委員長, 原研)
白方(動燃), 梶山(東北大), 関(雄)(FBEC), 中沢(東大炉),
中嶋(法大), 五十嵐, 菊池, 田中, 松浦(原研)
オブザーバー: 木村(京大炉), 鹿園, 松本, 浅見(原研)

配布資料

1. 第8回運営委員会議事録(案)
2. 57年度旅費使用実績
3. 2年報作成のための資料
4. シグマ特別専門/研究委員会 58年度活動方針(案)
5. Forecast of IAEA/NDS Meetings

議 事

1. 前回議事録確認
資料(1)により確認を行った。
2. 事務局報告
 - (1) 57年度旅費使用実績報告(浅見)
シグマ研究委員会の57年度の旅費の使用状況および会合の開催数について資料(2)により報告があった。
 - (2) 配布資料の取り扱いについて(五十嵐)
五十嵐氏から, 事務局が配布する資料は内部資料が多いので取り扱いに注意して欲しい旨の説明があり, 今後は内部資料を明示する印をおすことにした。また, Document 配布リストの再検討をしたいので, 気付

いた点があったら5月20日までに連絡して欲しいとの話があった。

3. 2年報作成の準備

松本氏から、資料(3)をもとに過去の執筆作業の経緯等の説明とともに、実作業は遮蔽国際会議の直後から行うとの説明があった。これに関連してシグマ委の活動状況を書いた英語版があってもよいとの意見があり議論を行った。なお、今回の2年報の主要テーマに“JENDL-2の完成”と“燃料サイクル核データ”が挙げられた。

4. Nordborg 氏の来日

NEA データバンクの Dr. C. Nordborg が遮蔽国際会議で来日し、会議の後、原研(5/23・24)と京大炉(5/26)を訪問することのアナウンスがあった。この話題に関連して遮蔽国際会議の国内の連絡の悪いことが指摘された。

5. 専門部会の58年度計画

核構造・崩壊データ専門部会について中嶋氏から報告があり、その中で、WG相互間の関係は余り重要でないので横の連絡はとり合っていない旨の説明があった。

炉定数専門部会について関(雄)氏から報告があり、燃料に関する感度解析を始めたいとの説明があった。これに対して、核種生成量評価WGと関連するので連絡をとり合った方がよいとの指摘があった。

6. 本委員会の準備

シグマ研究委員会全体の58年度活動方針案について、五十嵐氏から資料(4)の説明があり討議を行った。資料(4)について、表の形にしたものを付けた方が判り易いとの指摘があった。討議の中で、JENDL-2などの利用を促進させるために、データ集の刊行や広報活動が重要なこと、また、データ利用の実状の把握やシグマ委員会活動の紹介、専門部会間の連絡などの必要なことの指摘があった。広報活動の充実のために「核データニュース」をより有効に利用することから、ad-hoc小委員会を設けて検討することになった。この小委については浅見氏がまとめ役になりメンバーおよび討議項目の案を作成することになった。

本委員会の議題として、これまでに挙げられたもの以外に、諮問・調整委員会の報告、トピックスとして「FNS計画と核データ」を採り挙げることにした。

7. 特殊目的核データに関する答申書について

答申書を正式に受理したことが確認された。特殊目的核データの要求にどう対処したらよいかについて議論が行われたが、答申書の参考資料であるJAERI-memoが出来上がった時点で対応方について討議することにした。

8. 国際会合等について

五十嵐氏から資料(5)により今後の国際会合の予定について説明があった。また、資料(6)によりCINDAの出版計画についての対応案の説明があり、討議を行い、第2案(資料(6)を参照)を支持することになった。

この討議に関連してCINDAデータを磁気テープで入手できないかとの要望があり、NEAデータ・バンクに問合せてみることにした。

9. 核データ研究会の準備

世話役の中沢氏から、準備会は遮蔽国際会議の直後にスタートしたいとの説明があった。中国への案内状を出すかどうかについて討議が行われ、研究会は国内のものとして位置付けるが、中国へ案内状を出す方向で検討することにした。

10. 学会特別会合

春の原子力学会での特別会合の反省点について意見交換を行った。比較的良かったとする意見と全体的にまとまりがなく面白くなかったとする意見があった。秋の学会での特別会合で採り挙げるテーマとして、線量測定(測定および核データ)、特殊目的核データ(廃炉関係核データ)が挙げられたが、楢山氏と事務局でさらに検討することにした。

11. その他

(1) Specialists' Meeting on Yields and Decay Properties of Fission Products には田坂氏(原研)に代って吉田氏(NAIG)が出席することになったとの報告があった。

- (2) 木村氏から中国訪問の際の訪問機関先などについて説明があった。
- (3) 菊池氏から、新たに発足した重核データ・サブWGの第1回会合の概要について報告があった。

次回は6月17日(金)の午後、東海研で行う予定。